

平成 30 年度 Johnson&Johnson 女子中高生向けアウトリーチ活動プログラム  
「家族でナットク！理系最前線シンポジウム 2018」  
工学部・工学系研究科 実施報告書

## 1. 概要

日時：2018 年 8 月 1 日(水)13:00-15:00

場所：東京大学本郷キャンパス 工学部 11 号館大講義室

参加者：約200名(中高生約120名、保護者および家族約80名程度)

スタッフ：大久保研究科長、相田副研究科長、小紫(航空)、熊田(電気)、三村(精密)、秋元(マテ)、宮山(応化)、小寺(化シス)、石坂(量子)、藤田(総務)、内川(総務)、宮川(広報室)、北原(広報室)、石川(本部人事企画課)、黒沢(本部人事企画課)

講演者：井本佐保里(建築学専攻助教)、田中えりか(シス創 D1)、榊原華帆(機械 B4)

TA(6名 \*兼講演者)：シス創 D1\*、機械 B4\*、建築 B3、マテリアル B4、応化 B4、電情 B4



## 2. 実施内容

昨年同様、オープンキャンパス企画の一貫として開催した。Web 上で約1カ月前より概要を発表した。募集は会場の都合上120名としたが、酷暑にもかかわらず、当日の参加者は予想を遥かに上回る200名超えであった。開場前から行列ができ、開場と同時に座席も8割方が埋まり、補助椅子を大量に出しての対応となった。盛況ぶりに、参加を諦めて会場を後にした親子連れも多くみられた。

表1に当日の実施内容を示す。司会は宮山教授である。13 時に開会し、大久保研究科長による挨拶、小紫工学系男女共同参画委員長による趣旨説明に引き続き、教員(井本助教)の講演及び工学部・工学系研究科学生の講演を2件行った。講演者が現在携わっていることや、どのような動機でその分野を選んだかを身近な言葉で分かり易く紹介したものである。研究の面白さ、フィールドワークの充実ぶりなど、中高生にとっても楽しい大学生活の様子が感じられたようである。

講演会の後は、当初は、分野ごとに卓をわけての、TA や教員との懇談会を予定していた。来場者の人数の多さに急遽予定を変更し、TA が壇上にならび、会場の参加者からその場で質問を募るオープンディスカッションとした。コーディネータ(熊田副委員長)から工学部を選んだきっかけや、受験時のエピソードに関する質問をいくつか行っていくうちに、会場からも徐々に質問の声があがり、時間いっぱいぎりぎりまで質疑の時間をとることとなった。質問内容は、大学受験時の勉強のコツ、大学生活、そして卒業後の進路と多岐にわたった。



講演会の様子 2階に臨時に椅子を増やしたが、立ち見客が出るほどであった

表1 スケジュール

時間	内容
12:20	バイト、スタッフ集合 机, いすの配置 ディスプレイ接続
13:00	開会 司会：宮山教授 大久保研究科長挨拶 趣旨説明 小紫教授
13:10	教員講演 「災害と復興計画」 井本助教
13:30	学生講演 「海に魅せられて」 田中さん
13:45	学生講演 「学業とサークル活動の両立」 榊原さん
14:00~14:10	休憩
14:10~15:00	オープンディスカッション
15:00	閉会、アンケート回収
15:30	片付け、解散
配布物：ペットボトルの水、大学案内、工学部案内、工学系ロールモデル集、Perspectives、Ttime、アンケート、不織布バッグ	

### 3. アンケート結果

当日はアンケートを配布し、解散時に回収した。参加者のうち、中高生116名、保護者37名の回答を得た。116名の中高生の内訳は高校1年54名、高校2年50名と、高1,2年生が9割以上を占めた。図4,5に示すように、参加者の大半は、理工系に興味があって本イベントに参加している。これは、オープンキャンパスにおいて工学部の建物で開催しているという事案によることも多いと思われるが、理工系に馴染みのない受験生の掘り起こしという観点からいえば、今後は何らかの施策が必要であろう。図6,7に示すように、将来、理系の進路・職業に就くことに対しても、本イベントによりより好意的になったという回答が得られた。また、自由記述で本イベントの感想を求めたところ、東大が特別ではなく身近になった、楽しそうな学生生活を送っている様子がよくわかった、ライフワークとしての大学の位置づけという考え方に気付かされた、という声が数多くあった。

### 4. まとめ

昨年に引き続き、オープンキャンパスにおける企画の一貫として開催した。個別の週末企画イベントとは異

なり、前宣伝の手間や当日の学生やスタッフの労力を極力抑えられる一方で、多くの来場者に足を運んでもらえるという利点があった。2時間という限られた時間ではあったが、女性研究者や身近な先輩である在校生のナマの声を聞くことができ、普段馴染みの少ない“工学”に対するイメージが沸き進路の参考になったとの意見を多く得た。今回のイベントが女子中高生の進路選択の後押しになったと考えている。ただし、来場者の7割以上がすでに理系進路を念頭においている学生であった点については、より幅広い層に理工系分野を知ってもらおうという命題を満足しきれなかったともいえよう。なお、120人のキャパシティの会場に対し、200人超えの来場者があった。足を運びやすく、かつ一回り大きい会場の確保が次年度以降の課題である。

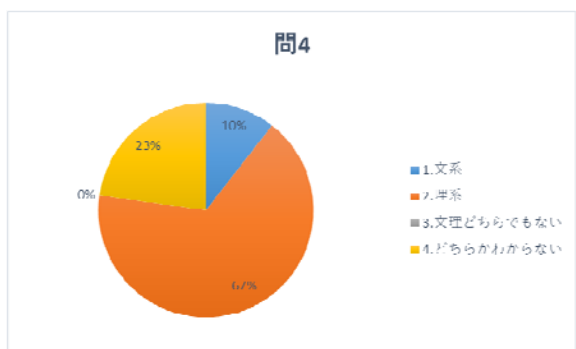


図4 文系理系どちらにむいていると思うか(中高生)

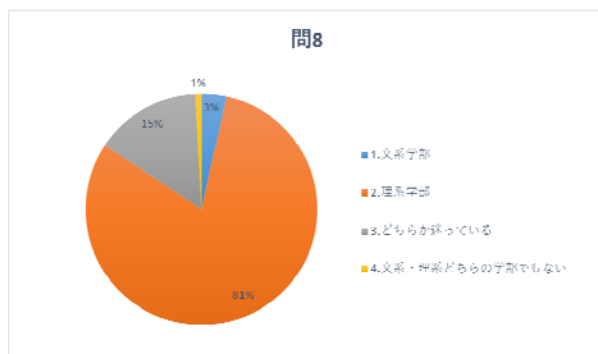


図5 文系理系どちらの学部に進学したいか(中高生)

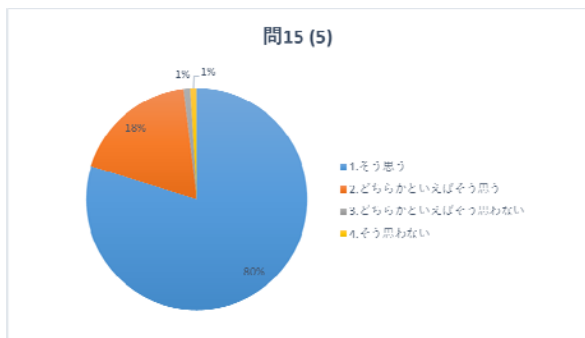


図6 理系の進路を前向きに選択しようと思ったか(中高生)

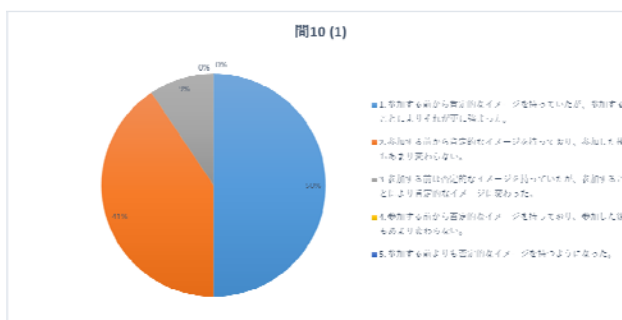


図7 女性が理系の職業に就くことに対するイメージの変化(保護者)